

第26回（令和4年度第1回）
セーフコミュニティ 防災対策委員会

《会 議 次 第》

日時：令和4年5月31日（火） 14:00～

場所：社会福祉協議会 2階大会議室

1. 報告事項

- (1) 今後の主なスケジュールについて
- (2) セーフコミュニティに関する実態調査及び市民意識調査の結果について

2. 協議事項

- (1) 2021（令和3）年度実績及び2022（令和4）年度方針（案）について
- (2) 事前指導のプレゼン資料（案）について
- (3) 広報啓発について

3. その他

- (1) 合同対策委員会におけるワークシートに関する報告

セーフコミュニティ年間スケジュール【令和4年度～令和5年度】

※セーフコミュニティ国際認証(再々認証)の取得を想定した場合のスケジュール

1. 報告事項(1)

業務	R4年度												R5年度											
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
SC推進組織					● 調整会議	● 本部会議	● ①推進協議会 ・R3実績R4方針 ・事前指導の内容・日程 ・プレゼン資料			年間活動報告書 (本番) ②推進協議会					● 調整会議	● 本部会議	● ①推進協議会 ・R4実績R5方針 ・現地審査の内容・日程 ・プレゼン資料 ・申請書提出(7月)			(本番) ②推進協議会		● 協議会委員の改選	年間活動報告書	
対策委員会	対策委員会 合同書		5~6月中旬 ①対策委員会 ・R3実績R4方針 ・事前指導の内容・日程 ・ワークショップ ・プレゼン資料案			7月下旬~8月 対策委員会(委員長) ・事前指導に向けて ・プレゼン資料(最終)			● 委員の改選	● 本番直前委員長リハ	(本番) ②対策委員会		③対策委員会 ・ワークショップ ・事前指導の講評について			4月20日頃まで ①対策委員会 ・R4実績R5方針 ・現地審査の内容・日程 ・ワークショップ ・プレゼン資料案		● 本番直前委員長リハ	(本番) ②対策委員会		R5年度内に開催 ③対策委員会 ・現地審査の講評について			
外傷等 動向調査委員会	書面開催		①外傷委員会 ・各対策委員会の 状況報告 ・プレゼン資料(案)			②外傷委員会(正副委員長) ・事前指導に向けて ・プレゼン資料(最終)			● 委員の改選	● 本番直前委員長リハ	(本番) ②外傷委員会		③外傷委員会 ・事前指導の講評について			4月20日頃まで ①外傷委員会 ・各対策委員会の 状況報告 ・プレゼン資料(案)		● 本番直前委員長リハ	(本番) ②外傷委員会		R5年度内に開催 ③外傷委員会 ・現地審査の講評について			
申請書									(案)申請書 申請書作成準備		12月~1月 申請書(案)作成		JISCと調整		3月 [各事務局] ・加筆修正	JISCとの調整期間 2回目(最終)	4月末 日本語版 確定	5月 英訳	6月 申請書 提出					
プレゼン資料															2~4月 現地指導に向けて プレゼン資料修正		JISCとの調整期間(最終)	5月末 日本語版 確定	英訳	7月 日本語版・ 英訳版 完成				
広報	You tube			外傷		防犯		交通安全		防災		自殺予防		DV防止		児童虐待防止		学校安全		高齢者の安全				
	広報くるめ				外傷		防犯		交通安全		防災		自殺予防		DV防止		児童虐待防止		学校安全		高齢者の安全			
	SC通信			標語募集	外傷		防犯		交通安全		防災		自殺予防		DV防止		児童虐待防止		学校安全		高齢者の安全			

久留米市
セーフコミュニティに関する実態調査
報告書



令和3年10月
久留米市

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

ケガや事故の予防を目的とした市民、関係機関、団体との協働による「セーフコミュニティ」活動に取り組むことにより、「みんなが安全に安心して暮らせるまちづくり」を目指している。本調査は、本市のセーフコミュニティの取り組みの基礎資料として、市民の経験や考えなどを把握する目的で、実施したものである。

2. 調査対象

市内に居住する 15 歳以上の男女 2,500 人

[対象者抽出方法] 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出

3. 調査期間

[調査開始] 令和 3 年 6 月 16 日 [調査期限] 令和 3 年 6 月 30 日

4. 回収結果

設定標本数 (人)	有効回収数 (人)	有効回収率 (%)
2,500	1,275	51.0%

※郵送での有効回収数 983 人、電子申請での有効回収数 292 人となっている。

5. 集計・分析上の注意

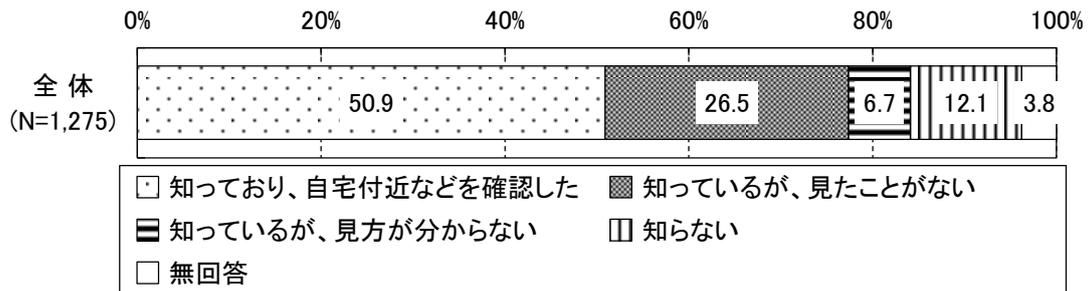
- 図表中の「N」はサンプル数（回答者数）を示す。
- 図表中の値は、原則として回答数を 100 とした場合の構成比 (%) で示した。端数処理（小数点第 2 位を四捨五入）のため、その合計が必ずしも 100.0%にならない場合がある。なお、複数回答（2 つ以上の選択肢を回答）は原則として 100%を超える。
- 年代別等のクロス集計は、上段が実数、下段が構成比を示しており、回答に年代等不明（無回答）がある場合、各項目のサンプル数の合計が全体サンプル数と合致しない場合がある。なお、全体の割合に比べて 5%以上高い実数と割合は、無回答を除き強調している。
- 文中の【属性別特徴】【設問間別特徴】は、各属性の傾向を読み取るため、全体の割合より 5 ポイント以上高く、各属性の標本数が 30 サンプル以上の場合に原則言及している。各属性の標本数が 30 サンプル未満である場合、統計的な傾向を読みとるには困難であることから、割合に言及していないことがある。
- 報告書中で【参考結果】平成 26 年度実施」と記載があるものは、平成 26 年度に実施した調査結果を掲載している。調査対象は市内に居住する満 20 歳以上の男女 2,500 人で、有効回収数 1,400 人、有効回収率 56.0%であった。

(1) ハザードマップの認知状況

問 25. あなたは、久留米市が作成している大雨による浸水や土砂崩れ等の恐れがある場所を示したハザードマップを知っていますか。(〇はひとつ)

ハザードマップを「知っている」人は8割強

- ハザードマップの認知状況について、「知っており、自宅付近などを確認した」が50.9%で最も高い。



【属性別特徴】

- 「知っており、自宅付近などを確認した」の割合を性別・年代別で見ると、男性・40～54歳、男性・65～69歳、女性・30～59歳が、全体の割合に比べて高い。
- 「知っており、自宅付近などを確認した」の割合をブロック別で見ると、北部A・Bが、全体の割合に比べて高い。

調査票

◆表 性別・年代別◆

		サンプル数	知っているが、 自宅付近な どを確認した	知っているが、 見たこと がない	知っているが、 見方が 分からない	知らない	無回答
全体		1,275 100.0	649 50.9	338 26.5	85 6.7	154 12.1	49 3.8
性別	男性	491 100.0	257 52.3	135 27.5	26 5.3	60 12.2	13 2.6
	女性	766 100.0	385 50.3	199 26.0	59 7.7	92 12.0	31 4.0
15~19歳	男性	21 100.0	6 28.6	7 33.3	4 19.0	4 19.0	0 0.0
	女性	27 100.0	7 25.9	14 51.9	2 7.4	4 14.8	0 0.0
20~24歳	男性	18 100.0	8 44.4	7 38.9	2 11.1	1 5.6	0 0.0
	女性	24 100.0	11 45.8	7 29.2	2 8.3	4 16.7	0 0.0
25~29歳	男性	17 100.0	8 47.1	6 35.3	1 5.9	2 11.8	0 0.0
	女性	28 100.0	11 39.3	7 25.0	2 7.1	8 28.6	0 0.0
30~34歳	男性	19 100.0	11 57.9	4 21.1	1 5.3	3 15.8	0 0.0
	女性	38 100.0	23 60.5	11 28.9	1 2.6	3 7.9	0 0.0
35~39歳	男性	33 100.0	15 45.5	12 36.4	3 9.1	3 9.1	0 0.0
	女性	59 100.0	33 55.9	12 20.3	5 8.5	9 15.3	0 0.0
40~44歳	男性	32 100.0	18 56.3	7 21.9	2 6.3	5 15.6	0 0.0
	女性	71 100.0	43 60.6	19 26.8	3 4.2	6 8.5	0 0.0
45~49歳	男性	43 100.0	28 65.1	9 20.9	2 4.7	4 9.3	0 0.0
	女性	61 100.0	40 65.6	13 21.3	3 4.9	5 8.2	0 0.0
50~54歳	男性	40 100.0	23 57.5	9 22.5	2 5.0	6 15.0	0 0.0
	女性	50 100.0	29 58.0	13 26.0	3 6.0	5 10.0	0 0.0
55~59歳	男性	35 100.0	19 54.3	12 34.3	0 0.0	3 8.6	1 2.9
	女性	63 100.0	41 65.1	17 27.0	3 4.8	0 0.0	2 3.2
60~64歳	男性	56 100.0	29 51.8	19 33.9	1 1.8	6 10.7	1 1.8
	女性	65 100.0	33 50.8	19 29.2	7 10.8	5 7.7	1 1.5
65~69歳	男性	46 100.0	31 67.4	7 15.2	0 0.0	5 10.9	3 6.5
	女性	75 100.0	35 46.7	19 25.3	9 12.0	10 13.3	2 2.7
70~74歳	男性	61 100.0	32 52.5	16 26.2	2 3.3	8 13.1	3 4.9
	女性	87 100.0	37 42.5	26 29.9	6 6.9	14 16.1	4 4.6
75~79歳	男性	29 100.0	15 51.7	8 27.6	2 6.9	3 10.3	1 3.4
	女性	53 100.0	21 39.6	11 20.8	7 13.2	5 9.4	9 17.0
80歳以上	男性	36 100.0	12 33.3	11 30.6	4 11.1	6 16.7	3 8.3
	女性	62 100.0	18 29.0	11 17.7	6 9.7	14 22.6	13 21.0

◆表 ブロック別◆

		サンプル数	知っているが、 自宅付近な どを確認した	知っているが、 見たこと がない	知っているが、 見方が 分からない	知らない	無回答
全体		1,275 100.0	649 50.9	338 26.5	85 6.7	154 12.1	49 3.8
ブロック別	東部A	91 100.0	46 50.5	20 22.0	6 6.6	16 17.6	3 3.3
	東部B	80 100.0	40 50.0	23 28.8	4 5.0	8 10.0	5 6.3
	北部A	113 100.0	66 58.4	28 24.8	10 8.8	7 6.2	2 1.8
	北部B	72 100.0	41 56.9	15 20.8	5 6.9	10 13.9	1 1.4
	中央東部	140 100.0	73 52.1	34 24.3	6 4.3	24 17.1	3 2.1
	南東部	108 100.0	51 47.2	33 30.6	8 7.4	11 10.2	5 4.6
	中央部	177 100.0	92 52.0	47 26.6	13 7.3	18 10.2	7 4.0
	中央南部	205 100.0	107 52.2	58 28.3	14 6.8	21 10.2	5 2.4
	南西部	125 100.0	59 47.2	32 25.6	8 6.4	17 13.6	9 7.2
	西部A	55 100.0	18 32.7	21 38.2	2 3.6	10 18.2	4 7.3
	西部B	74 100.0	40 54.1	19 25.7	6 8.1	6 8.1	3 4.1

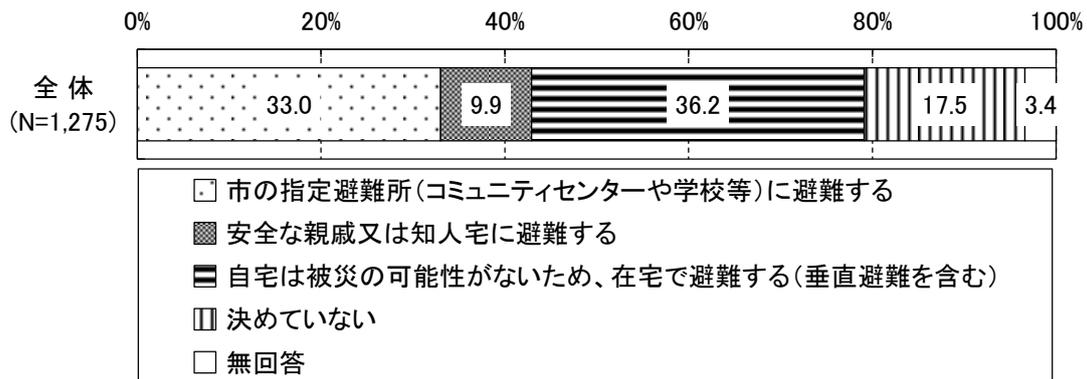
(2) 災害による危険が高まった場合に自分又は家族がとる行動

問 26. あなたは、災害による危険が高まった場合、自分又は家族が取るべき行動を決めていますか。

(○はひとつ)

「自宅は被災の可能性がないため、在宅で避難する」人は4割弱

- 災害による危険が高まった場合に自分又は家族がとる行動について、「自宅は被災の可能性がないため、在宅で避難する」が36.2%で最も高く、「市の指定避難所」が33.0%と続く。



【属性別特徴】

- 「自宅は被災の可能性がないため、在宅で避難する(2階以上の高所に避難する垂直避難を含む)」の割合を性別・年代別で見ると、男性・40～44歳、男性・50～54歳、男性・70～74歳、女性・35～39歳、女性・50～54歳、女性・60～64歳、女性・70～74歳が、全体の割合に比べて高い。
- 「市の指定避難所(コミュニティセンターや学校等)に避難する」の割合を性別・年代別で見ると、女性・30～34歳が全体の割合に比べて高い。
- 「自宅は被災の可能性がないため、在宅で避難する(2階以上の高所に避難する垂直避難を含む)」の割合をブロック別で見ると、中央部が全体の割合に比べて高い。
- 「市の指定避難所(コミュニティセンターや学校等)に避難する」の割合をブロック別で見ると、南東部、西部Aが全体の割合に比べて高い。

調査票

◆表 性別・年代別◆

		サンプル数	避難する 市指定避難所 (コミュニティセンターや学校等)に	安全な親戚又は知人宅に避難する	直階以上の高所に避難する(含む)	自宅は被災の可能性がないため、在宅で避難する(2)	決めていない	無回答
全体		1,275 100.0	421 33.0	126 9.9	462 36.2	223 17.5	43 3.4	
性別	男性	491 100.0	163 33.2	46 9.4	175 35.6	93 18.9	14 2.9	
	女性	766 100.0	255 33.3	78 10.2	282 36.8	127 16.6	24 3.1	
15~19歳	男性	21 100.0	5 23.8	5 23.8	8 38.1	3 14.3	0 0.0	
	女性	27 100.0	16 59.3	4 14.8	2 7.4	5 18.5	0 0.0	
20~24歳	男性	18 100.0	7 38.9	0 0.0	4 22.2	7 38.9	0 0.0	
	女性	24 100.0	10 41.7	2 8.3	7 29.2	5 20.8	0 0.0	
25~29歳	男性	17 100.0	9 52.9	4 23.5	2 11.8	2 11.8	0 0.0	
	女性	28 100.0	13 46.4	1 3.6	4 14.3	10 35.7	0 0.0	
30~34歳	男性	19 100.0	7 36.8	2 10.5	3 15.8	7 36.8	0 0.0	
	女性	38 100.0	15 39.5	4 10.5	12 31.6	7 18.4	0 0.0	
35~39歳	男性	33 100.0	11 33.3	7 21.2	9 27.3	6 18.2	0 0.0	
	女性	59 100.0	19 32.2	5 8.5	26 44.1	9 15.3	0 0.0	
40~44歳	男性	32 100.0	10 31.3	1 3.1	15 46.9	6 18.8	0 0.0	
	女性	71 100.0	16 22.5	12 16.9	29 40.8	14 19.7	0 0.0	
45~49歳	男性	43 100.0	14 32.6	4 9.3	14 32.6	11 25.6	0 0.0	
	女性	61 100.0	21 34.4	6 9.8	23 37.7	11 18.0	0 0.0	
50~54歳	男性	40 100.0	15 37.5	1 2.5	17 42.5	7 17.5	0 0.0	
	女性	50 100.0	15 30.0	3 6.0	22 44.0	10 20.0	0 0.0	
55~59歳	男性	35 100.0	13 37.1	2 5.7	11 31.4	8 22.9	1 2.9	
	女性	63 100.0	23 36.5	2 3.2	25 39.7	12 19.0	1 1.6	
60~64歳	男性	56 100.0	19 33.9	8 14.3	21 37.5	6 10.7	2 3.6	
	女性	65 100.0	20 30.8	11 16.9	28 43.1	5 7.7	1 1.5	
65~69歳	男性	46 100.0	17 37.0	2 4.3	14 30.4	9 19.6	4 8.7	
	女性	75 100.0	22 29.3	9 12.0	29 38.7	14 18.7	1 1.3	
70~74歳	男性	61 100.0	15 24.6	2 3.3	32 52.5	9 14.8	3 4.9	
	女性	87 100.0	27 31.0	10 11.5	37 42.5	9 10.3	4 4.6	
75~79歳	男性	29 100.0	7 24.1	4 13.8	15 51.7	2 6.9	1 3.4	
	女性	53 100.0	17 32.1	3 5.7	21 39.6	5 9.4	7 13.2	
80歳以上	男性	36 100.0	12 33.3	4 11.1	8 22.2	9 25.0	3 8.3	
	女性	62 100.0	21 33.9	5 8.1	15 24.2	11 17.7	10 16.1	

◆表 ブロック別◆

		サンプル数	避難する 市指定避難所 (コミュニティセンターや学校等)に	安全な親戚又は知人宅に避難する	直階以上の高所に避難する(含む)	自宅は被災の可能性がないため、在宅で避難する(2)	決めていない	無回答
全体		1,275 100.0	421 33.0	126 9.9	462 36.2	223 17.5	43 3.4	
ブロック別	東部A	91 100.0	26 28.6	15 16.5	34 37.4	13 14.3	3 3.3	
	東部B	80 100.0	18 22.5	9 11.3	32 40.0	15 18.8	6 7.5	
	北部A	113 100.0	41 36.3	14 12.4	40 35.4	16 14.2	2 1.8	
	北部B	72 100.0	25 34.7	8 11.1	23 31.9	15 20.8	1 1.4	
	中央東部	140 100.0	53 37.9	7 5.0	56 40.0	22 15.7	2 1.4	
	南東部	108 100.0	46 42.6	4 3.7	33 30.6	23 21.3	2 1.9	
	中央部	177 100.0	50 28.2	17 9.6	73 41.2	31 17.5	6 3.4	
	中央南部	205 100.0	69 33.7	16 7.8	80 39.0	33 16.1	7 3.4	
	南西部	125 100.0	36 28.8	15 12.0	44 35.2	24 19.2	6 4.8	
	西部A	55 100.0	22 40.0	8 14.5	11 20.0	12 21.8	2 3.6	
	西部B	74 100.0	27 36.5	9 12.2	25 33.8	11 14.9	2 2.7	

【設問間別特徴】

- 「自宅は被災の可能性がないため、在宅で避難する（2階以上の高所に避難する垂直避難を含む）」の割合を住居形態別でみると、持ち家（集合住宅・分譲マンション）が全体の割合に比べて高い。
- 「市の指定避難所（コミュニティセンターや学校等）に避難する」の割合を住居形態別でみると、借家住宅（一戸建て）が、全体の割合に比べて高い。

◆表 住居形態別◆

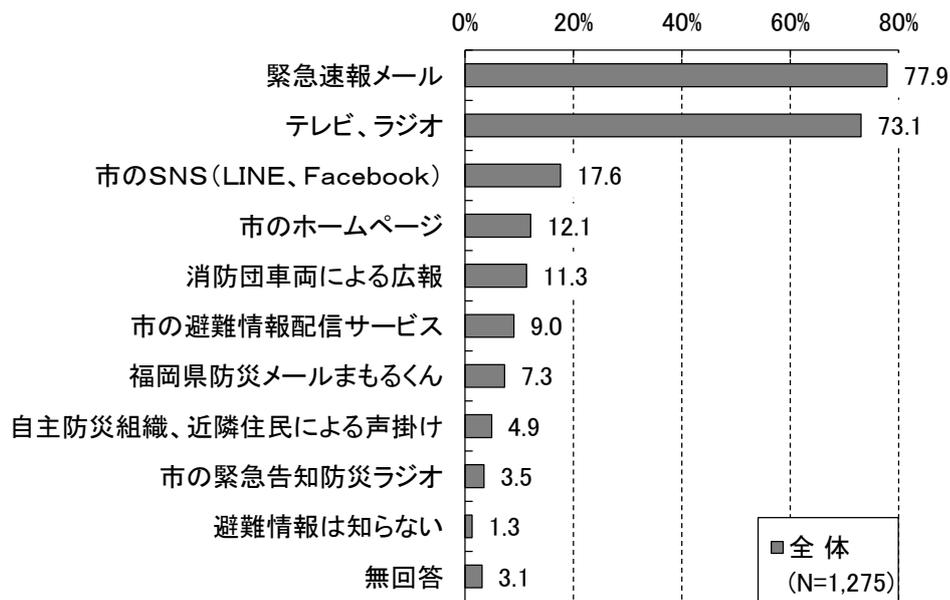
		サ ン プ ル 数	避 難 す る 市 の 指 定 避 難 所 （ コ ミ ュ ニ テ ィ セ ン タ ー や 学 校 等 ） に ニ	避 難 す る 安 全 な 親 戚 又 は 知 人 宅 に	直 階 以 上 の 高 所 に 避 難 す る （ 垂 直 避 難 を 含 む ）	自 宅 は 被 災 の 可 能 性 が な い （ 2 階 以 上 の 高 所 に 避 難 す る ）	決 め て い な い	無 回 答
全 体		1,275 100.0	421 33.0	126 9.9	462 36.2	223 17.5	43 3.4	
住 居 形 態 別	持ち家（一戸建て）	817 100.0	284 34.8	81 9.9	285 34.9	140 17.1	27 3.3	
	持ち家 （集合住宅・分譲マンション）	129 100.0	28 21.7	4 3.1	76 58.9	19 14.7	2 1.6	
	借家住宅（一戸建て）	45 100.0	18 40.0	8 17.8	7 15.6	10 22.2	2 4.4	
	賃貸住宅 （アパート、マンション）	232 100.0	77 33.2	28 12.1	78 33.6	40 17.2	9 3.9	
	勤務先給与住宅 （公務員住宅・社宅・寮など）	15 100.0	8 53.3	1 6.7	3 20.0	3 20.0	0 0.0	

(3) 避難情報の取得媒体

問 27. あなたは、避難情報（高齢者等避難、避難指示等）をどのように取得していますか。（あてはまるものすべてに○）

避難情報を「緊急速報メール」で取得する人は8割弱

●避難情報の取得媒体について、「緊急速報メール」が77.9%で最も高く、「ラジオ、テレビ」が73.1%と続く。



【属性別特徴】

- 「緊急速報メール」の割合を性別・年代別で見ると、男性・40～44歳、男性・50～64歳、女性・35～39歳、女性・45～69歳が、全体の割合に比べて高い。
- 「テレビ・ラジオ」の割合を性別・年代別で見ると、男性・65～74歳、女性・30～34歳、女性・50～59歳が、全体の割合に比べて高い。
- 「テレビ・ラジオ」の割合をブロック別で見ると、西部Aが全体の割合に比べて高い。

◆表 性別・年代別◆

		サンプル数	緊急速報メール	テレビ、ラジオ	F a c e b o o k)	市のSNS (LINE、)	市のホームページ	消防団車両による広報	市の避難情報配信サービス	福岡県防災メールまもるくん	自主防災組織、近隣住民による声掛け	市の緊急告知防災ラジオ	避難情報は知らない	無回答
全体		1,275 100.0	993 77.9	932 73.1	224 17.6	154 12.1	144 11.3	115 9.0	93 7.3	63 4.9	44 3.5	16 1.3	39 3.1	
性別	男性	491 100.0	382 77.8	361 73.5	82 16.7	71 14.5	71 14.5	47 9.6	30 6.1	27 5.5	18 3.7	7 1.4	14 2.9	
	女性	766 100.0	599 78.2	560 73.1	138 18.0	82 10.7	72 9.4	68 8.9	62 8.1	36 4.7	25 3.3	8 1.0	22 2.9	
15~19歳	男性	21 100.0	19 90.5	14 66.7	1 4.8	4 19.0	2 9.5	2 9.5	2 9.5	2 9.5	1 4.8	0 0.0	0 0.0	
	女性	27 100.0	19 70.4	17 63.0	2 7.4	2 7.4	0 0.0	0 0.0	3 3.7	1 3.7	1 3.7	1 3.7	0 0.0	
20~24歳	男性	18 100.0	14 77.8	10 55.6	2 11.1	3 16.7	2 11.1	1 5.6	1 5.6	1 5.6	1 5.6	0 0.0	0 0.0	
	女性	24 100.0	21 87.5	16 66.7	8 33.3	3 12.5	1 4.2	2 8.3	0 0.0	1 4.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
25~29歳	男性	17 100.0	14 82.4	11 64.7	5 29.4	8 47.1	0 0.0	1 5.9	1 5.9	1 5.9	1 5.9	0 0.0	0 0.0	
	女性	28 100.0	23 82.1	15 53.6	4 14.3	3 10.7	1 3.6	0 0.0	2 7.1	2 7.1	0 0.0	1 3.6	0 0.0	
30~34歳	男性	19 100.0	14 73.7	17 89.5	5 26.3	3 15.8	1 5.3	1 5.3	2 10.5	0 0.0	0 0.0	1 5.3	0 0.0	
	女性	38 100.0	30 78.9	30 78.9	10 26.3	9 23.7	0 0.0	3 7.9	1 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
35~39歳	男性	33 100.0	27 81.8	24 72.7	9 27.3	5 15.2	1 3.0	1 3.0	1 3.0	0 0.0	1 3.0	2 6.1	0 0.0	
	女性	59 100.0	49 83.1	44 74.6	22 37.3	7 11.9	2 3.4	4 6.8	7 11.9	0 0.0	0 0.0	1 1.7	0 0.0	
40~44歳	男性	32 100.0	30 93.8	22 68.8	5 15.6	4 12.5	4 12.5	1 3.1	5 15.6	0 0.0	1 3.1	1 3.1	0 0.0	
	女性	71 100.0	58 81.7	49 69.0	21 29.6	12 16.9	4 5.6	4 5.6	10 14.1	2 2.8	2 2.8	0 0.0	0 0.0	
45~49歳	男性	43 100.0	34 79.1	30 69.8	11 25.6	7 16.3	3 7.0	2 4.7	1 2.3	2 4.7	1 2.3	1 2.3	0 0.0	
	女性	61 100.0	54 88.5	40 65.6	12 19.7	9 14.8	3 4.9	5 8.2	10 16.4	2 3.3	2 3.3	2 3.3	0 0.0	
50~54歳	男性	40 100.0	36 90.0	31 77.5	8 20.0	10 25.0	6 15.0	4 10.0	3 7.5	5 12.5	1 2.5	0 0.0	0 0.0	
	女性	50 100.0	45 90.0	44 88.0	15 30.0	7 14.0	7 14.0	4 8.0	6 12.0	3 6.0	2 4.0	0 0.0	0 0.0	
55~59歳	男性	35 100.0	29 82.9	22 62.9	10 28.6	3 8.6	3 8.6	4 11.4	4 11.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.9	
	女性	63 100.0	53 84.1	55 87.3	14 22.2	9 14.3	7 11.1	4 6.3	4 6.3	2 3.2	1 1.6	0 0.0	1 1.6	
60~64歳	男性	56 100.0	47 83.9	41 73.2	10 17.9	6 10.7	6 10.7	4 7.1	1 1.8	2 3.6	2 3.6	0 0.0	2 3.6	
	女性	65 100.0	61 93.8	48 73.8	12 18.5	5 7.7	5 7.7	7 10.8	6 9.2	3 4.6	1 1.5	0 0.0	0 0.0	
65~69歳	男性	46 100.0	34 73.9	36 78.3	6 13.0	5 10.9	8 17.4	6 13.0	5 10.9	3 6.5	3 6.5	0 0.0	3 6.5	
	女性	75 100.0	65 86.7	56 74.7	7 9.3	1 1.3	12 16.0	11 14.7	3 4.0	6 8.0	2 2.7	1 1.3	2 2.7	
70~74歳	男性	61 100.0	42 68.9	48 78.7	6 9.8	6 9.8	17 27.9	8 13.1	1 1.6	4 6.6	2 3.3	1 1.6	3 4.9	
	女性	87 100.0	64 73.6	61 70.1	7 8.0	4 4.6	15 17.2	12 13.8	4 4.6	6 6.9	5 5.7	0 0.0	4 4.6	
75~79歳	男性	29 100.0	19 65.5	24 82.8	3 10.3	2 6.9	11 37.9	6 20.7	1 3.4	3 10.3	1 3.4	0 0.0	1 3.4	
	女性	53 100.0	31 58.5	39 73.6	0 0.0	4 7.5	8 15.1	6 11.3	3 5.7	2 3.8	2 3.8	0 0.0	6 11.3	
80歳以上	男性	36 100.0	20 55.6	28 77.8	1 2.8	4 11.1	6 16.7	6 16.7	1 2.8	4 11.1	3 8.3	0 0.0	4 11.1	
	女性	62 100.0	24 38.7	44 71.0	2 3.2	0 0.0	7 11.3	6 9.7	4 6.5	6 9.7	7 11.3	2 3.2	9 14.5	

調査票

◆表 ブロック別◆

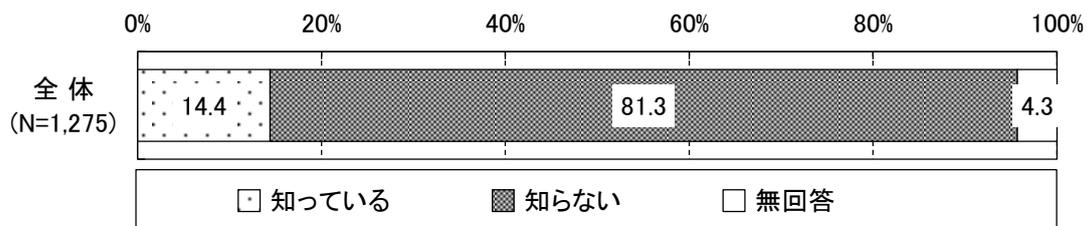
	サンプル数	緊急速報メール	テレビ、ラジオ	市のSNS（LINE、Facebook）	市のホームページ	消防団車両による広報	市の避難情報配信サービス	福岡県防災メールまもるくん	自主防災組織、近隣住民による声掛け	市の緊急告知防災ラジオ	避難情報は知らない	無回答	
全 体	1,275 100.0	993 77.9	932 73.1	224 17.6	154 12.1	144 11.3	115 9.0	93 7.3	63 4.9	44 3.5	16 1.3	39 3.1	
ブロック別	東部A	91 100.0	73 80.2	63 69.2	14 15.4	4 4.4	16 17.6	7 7.7	4 4.4	9 9.9	2 2.2	1 1.1	3 3.3
	東部B	80 100.0	55 68.8	57 71.3	10 12.5	8 10.0	17 21.3	9 11.3	5 6.3	9 11.3	6 7.5	0 0.0	7 8.8
	北部A	113 100.0	89 78.8	86 76.1	21 18.6	15 13.3	12 10.6	15 13.3	7 6.2	10 8.8	4 3.5	2 1.8	1 0.9
	北部B	72 100.0	54 75.0	56 77.8	14 19.4	9 12.5	4 5.6	5 6.9	5 6.9	4 5.6	1 1.4	1 1.4	0 0.0
	中央東部	140 100.0	110 78.6	101 72.1	28 20.0	18 12.9	13 9.3	8 5.7	13 9.3	3 2.1	4 2.9	3 2.1	2 1.4
	南東部	108 100.0	84 77.8	82 75.9	13 12.0	9 8.3	13 12.0	8 7.4	6 5.6	6 5.6	4 3.7	0 0.0	4 3.7
	中央部	177 100.0	140 79.1	133 75.1	32 18.1	25 14.1	17 9.6	12 6.8	18 10.2	1 0.6	3 1.7	4 2.3	4 2.3
	中央南部	205 100.0	165 80.5	140 68.3	42 20.5	35 17.1	14 6.8	25 12.2	19 9.3	7 3.4	7 3.4	3 1.5	7 3.4
	南西部	125 100.0	97 77.6	95 76.0	21 16.8	11 8.8	12 9.6	10 8.0	10 8.0	3 2.4	5 4.0	1 0.8	5 4.0
	西部A	55 100.0	39 70.9	44 80.0	10 18.2	7 12.7	16 29.1	5 9.1	1 1.8	5 9.1	6 10.9	0 0.0	2 3.6
	西部B	74 100.0	61 82.4	52 70.3	11 14.9	9 12.2	9 12.2	9 12.2	4 5.4	6 8.1	0 0.0	0 0.0	1 1.4

(4) 「避難行動要支援者名簿」の認知状況

問 28. あなたは、「避難行動要支援者名簿」について知っていますか。(○はひとつ)

8割強の人は「避難行動要支援者名簿」を知らない

- 「避難行動要支援者名簿」の認知状況について、「知らない」が81.3%で最も高い。



【属性別特徴】

- 「知っている」の割合を性別・年代別で見ると、男性・55～59歳、男性・65～74歳、男性・80歳以上、女性・55～59歳、女性・65～74歳が、全体の割合に比べて高い。
- 「知っている」の割合をブロック別で見ると、東部Aが全体の割合に比べて高い。

調査票

◆表 性別・年代別◆

		サンプル数	知っている	知らない	無回答
全体		1,275 100.0	183 14.4	1,037 81.3	55 4.3
性別	男性	491 100.0	74 15.1	401 81.7	16 3.3
	女性	766 100.0	108 14.1	623 81.3	35 4.6
15~19歳	男性	21 100.0	1 4.8	20 95.2	0 0.0
	女性	27 100.0	0 0.0	27 100.0	0 0.0
20~24歳	男性	18 100.0	0 0.0	18 100.0	0 0.0
	女性	24 100.0	3 12.5	21 87.5	0 0.0
25~29歳	男性	17 100.0	2 11.8	15 88.2	0 0.0
	女性	28 100.0	1 3.6	27 96.4	0 0.0
30~34歳	男性	19 100.0	1 5.3	18 94.7	0 0.0
	女性	38 100.0	2 5.3	36 94.7	0 0.0
35~39歳	男性	33 100.0	5 15.2	28 84.8	0 0.0
	女性	59 100.0	6 10.2	53 89.8	0 0.0
40~44歳	男性	32 100.0	3 9.4	29 90.6	0 0.0
	女性	71 100.0	11 15.5	60 84.5	0 0.0
45~49歳	男性	43 100.0	4 9.3	38 88.4	1 2.3
	女性	61 100.0	8 13.1	53 86.9	0 0.0
50~54歳	男性	40 100.0	6 15.0	34 85.0	0 0.0
	女性	50 100.0	6 12.0	44 88.0	0 0.0
55~59歳	男性	35 100.0	11 31.4	23 65.7	1 2.9
	女性	63 100.0	13 20.6	49 77.8	1 1.6
60~64歳	男性	56 100.0	5 8.9	49 87.5	2 3.6
	女性	65 100.0	10 15.4	54 83.1	1 1.5
65~69歳	男性	46 100.0	9 19.6	34 73.9	3 6.5
	女性	75 100.0	18 24.0	55 73.3	2 2.7
70~74歳	男性	61 100.0	13 21.3	44 72.1	4 6.6
	女性	87 100.0	18 20.7	62 71.3	7 8.0
75~79歳	男性	29 100.0	6 20.7	21 72.4	2 6.9
	女性	53 100.0	6 11.3	35 66.0	12 22.6
80歳以上	男性	36 100.0	8 22.2	25 69.4	3 8.3
	女性	62 100.0	6 9.7	44 71.0	12 19.4

◆表 ブロック別◆

		サンプル数	知っている	知らない	無回答
全体		1,275 100.0	183 14.4	1,037 81.3	55 4.3
ブロック別	東部A	91 100.0	23 25.3	64 70.3	4 4.4
	東部B	80 100.0	14 17.5	57 71.3	9 11.3
	北部A	113 100.0	14 12.4	97 85.8	2 1.8
	北部B	72 100.0	12 16.7	58 80.6	2 2.8
	中央東部	140 100.0	21 15.0	117 83.6	2 1.4
	南東部	108 100.0	9 8.3	95 88.0	4 3.7
	中央部	177 100.0	19 10.7	153 86.4	5 2.8
	中央南部	205 100.0	33 16.1	165 80.5	7 3.4
	南西部	125 100.0	15 12.0	101 80.8	9 7.2
	西部A	55 100.0	8 14.5	43 78.2	4 7.3
	西部B	74 100.0	13 17.6	57 77.0	4 5.4

令和3年度久留米市民意識調査結果(速報)について

久留米市民意識調査のうち、セーフコミュニティに関する項目について報告する。

報告書は現在編集中のため、単純集計結果のみの報告である。

表中の集計結果の単位は%、参考のため、過年度調査の単純集計結果を付記。

1. 久留米市民意識調査

(1) 調査の目的

変化する市民意識の動向と現在の多様な市民ニーズを統計的に把握し、今後の市の施策・事業の検討、推進、評価の基礎データとして活用するため

(2) 調査の概要

*調査対象者・・・久留米市に在住する満18歳以上の人

*抽出方法・・・住民基本台帳から、性別・年齢・地域の人口構成比に基づき5,000人を無作為に抽出

*調査方法・・・調査票を郵送し、郵送又はインターネットで回収を行う

*調査期間・・・令和3年7月27日～8月16日

*回収数(率)・・・2,194票(43.9%)

内、郵送1,718票、インターネット476票

(3) 調査テーマ

- ①行政施策、②セーフコミュニティ、③地域コミュニティ活動、④広報、
- ⑤在宅医療、⑥新型コロナウイルス感染症の影響

2. 市民意識調査の単純集計結果（セーフコミュニティに関する項目）

セーフコミュニティの認知に関すること

問 28 あなたは、久留米市が、セーフコミュニティ国際認証を取得して「安全安心のまちづくり」に取り組んでいることを知っていますか。(あてはまる番号1つだけ)(回答者数 2,194 件)

1. 取り組んでいることを知っている (5.6%) 2. 聞いたことがある (17.8%)
 3. 知らない (74.3%) (無回答 2.2%)

過年度調査との比較

調査年次	知っている	聞いたことがある	合計	質問内容
H23	6.6	41.5	48.1	WHO 提唱の S C を知っているか
H26	4.8	28.5	33.3	〃
H29	6.3	20.3	26.6	久留米市が S C に取り組んでいることを知っているか
R3	5.6	17.8	23.4	〃

体感治安に関すること

問 29-1 あなたは、お住まいの地域で、けがや事故、犯罪、災害にあうかもしれない不安を感じますか。(あてはまる番号それぞれ1つずつ)(回答者数 2,194 件)

		1. 不安を感じる	2. やや不安を感じる	3. あまり不安を感じない	4. 不安を感じない	無回答
(ア) けがや事故	H26	19.4	40.2	29.5	7.7	
	H29	21.9	43.2	27.6	5.2	
	R3	20.7	41.1	29.7	6.1	
(イ) 犯罪	H26	19.1	41.3	29.7	5.7	(3.6%)
	H29	18.0	41.3	33.6	4.8	
	R3	14.6	43.3	33.1	5.3	
(ウ) 災害	H26	14.2	33.2	38.7	9.6	(3.2%)
	H29	16.2	36.2	37.5	7.2	
	R3	29.9	35.5	25.0	6.3	

問 29-2 この3年くらいの間で不安感は変化しましたか。(あてはまる番号それぞれ1つずつ)
(回答者数 2,194 件)

		1. 安 心 感 が 高 ま っ た	2. つ た や や 安 心 感 が 高 ま っ た	3. 変 わ ら な い	4. つ た や や 不 安 感 が 高 ま っ た	5. 不 安 感 が 高 ま っ た	無 回 答
(ア) けがや事故	H26	1.7	6.7	77.2	6.7	3.4	(3.0%)
	H29	2.4	6.3	77.8	7.1	3.0	
	R3	2.0	6.0	79.4	6.7	2.9	
(イ) 犯罪	H26	1.6	6.4	72.4	9.5	5.0	(3.9%)
	H29	2.2	6.1	74.3	10.8	4.1	
	R3	1.8	6.6	77.2	7.8	2.7	
(ウ) 災害	H26	2.0	7.5	72.7	8.7	4.3	(3.1%)
	H29	2.7	7.2	69.8	11.6	5.7	
	R3	3.1	7.0	55.6	17.5	13.7	

問 30-1 あなたやあなたのご家族がふだん生活する中で、不安に感じることは何ですか。
(あてはまる番号いくつでも) (回答者数 2,194 件) (無回答 1.0%)

		H23	H26	H29	R3
1	自転車による交通事故	-	39.5	38.6	35.7
2	自動車による交通事故	-	70.3	73.6	68.9
3	暴力行為や傷害、強盗などの凶悪犯罪	41.1	22.2	14.8	19.5
4	空き巣や自転車の盗難、ひったくりなどの窃盗犯罪	62.1	48.9	44.4	38.9
5	給付金詐欺等の電話を使った特殊詐欺	-	-	-	18.2
6	痴漢や強制わいせつ、のぞき・盗撮などの性的犯罪	29.1	23.2	19.5	17.2
7	職場でのけがや事故(労働災害)	19.1	13.0	14.7	14.9
8	余暇活動や運動中のけがや事故	10.9	7.2	6.9	7.8
9	学校や登下校時のけがや事故	24.3	21.6	23.2	21.7
10	家庭内でのけがや事故(乳幼児や高齢者の転倒など)	28.4	14.3	13.7	16.1
11	家庭内での暴力や虐待	12.2	3.0	3.7	1.8
12	心の病や自殺	23.2	13.0	15.3	10.6
13	地震や大雨などの災害	-	54.2	63.4	71.0
14	特にない	3.9	5.6	3.4	4.6

問 30-2 あなたは、けがや事故、犯罪などを防いだり、災害への備えとして、個人や地域で特
 どのような取り組みや対策を行うことが必要だと思いますか。(あてはまる番号いくつでも)
 (回答者数 2,194 件) (無回答 2.1%)

		H23	H26	H29	R3
1	地域内の危険箇所や不安箇所の点検を行い、安全・安心マップを作成する	42.4	43.5	36.8	55.5
2	登下校時の児童や、一人暮らしなどの高齢者の見守り活動を行う	50.4	51.7	47.3	44.1
3	近隣住民とのあいさつなど、近所づきあいを良くする	50.3	51.8	52.6	47.1
4	日頃から地域の防犯パトロールや防犯活動に積極的に参加する	21.6	12.1	12.1	13.6
5	交通安全や転倒予防、防犯などに関する学習会を開く	7.9	7.2	6.7	9.3
6	詐欺や自殺などの予防について、市の出前講座を利用して理解を深める	-	-	-	8.8
7	地震や火災、水害など災害が起きた時のために防災訓練を行う	19.4	20.0	22.2	33.5
8	一人ひとりが注意して事故や犯罪にあわないように気をつける	64.1	60.4	61.4	63.7

防災に関すること

問 31 地震や風水害などの災害時に電気・水道・ガスなどがストップした場合に備えて、あなたのご家庭では水や食料をどの程度備蓄していますか。(あてはまる番号にそれぞれ1つずつ)
 (回答者数 2,194 件)

		1. 1 日 分	2. 2 日 分	3. 3 日 分 以 上	4. 何 も し て い な い	無 回 答
(ア) 水 (1日あたり1人3リットルが目安)	H23	14.4	13.9	11.7	59.5	(1.0%)
	H26	15.4	14.6	11.3	55.9	
	H29	17.6	15.0	12.1	54.4	
	R3	21.5	22.6	18.3	36.6	
(イ) 食料	H23	12.8	16.4	19.7	50.4	(1.5%)
	H26	14.6	18.1	15.7	48.1	
	H29	16.0	17.7	14.3	54.4	
	R3	16.9	25.7	23.9	32.0	

問 32 あなたのご家庭では、地震や水害などの災害に備え、次にあげるような対策をとっていますか。

(あてはまる番号いくつでも) (回答者数 2,194 件) (無回答 1.1%)

		H23	H26	H29	R3
1	非常持ち出し袋の用意	13.3	13.2	19.5	26.5
2	家族との連絡方法の確認	20.0	20.9	26.3	33.4
3	地震・水害などに対応した保険の加入	29.6	27.5	30.4	47.0
4	建物の耐震化	9.1	9.3	10.1	13.1
5	家具や冷蔵庫などの転倒防止	12.2	11.0	12.8	14.6
6	災害に関する情報入手方法の確保	-	11.5	14.4	21.1
7	特にしていない	46.2	44.0	37.9	24.4

問 33-1 久留米市では、災害が起こった時のために、校区内の公立小中学校やコミュニティセンター、市役所関連施設などを避難所に指定しています。次の(ア)(イ)について、あてはまるものを選んでください。(あてはまる番号それぞれ1つずつ)

		1. い 避 難 経 路 も 決 め て	2. が、 て な い 場 所 は 知 っ て い る が、 避 難 経 路 は 決 め て い な い	3. い 場 所 も 知 ら ず、 避 難 経 路 も 決 め て い な い	無 回 答
(ア) 自宅の近くにある避難所の場所を知っていますか。 (回答者数 2,194 件)	H23	19.1	47.1	-	(1.6%)
	H26	25.1	49.9	22.9	
	H29	23.7	58.5	16.8	
	R3	29.1	59.1	10.2	
(イ) 通勤・通学をされている方に あなたの仕事場や学校の近くにある避難所の場所を知っていますか。 (回答者数 1,497 件)	H23	9.9	17.6	-	(12.4%)
	H26	13.4	22.3	45.9	
	H29	14.9	26.0	45.1	
	R3	17.1	30.0	40.5	

問 33-2 あなたの住まいの地域では、校区コミュニティ組織などを母体とした自主防災組織の活動が行われていますか。(あてはまる番号1つだけ) (回答者数 2,194 件) (無回答 3.1%)

		H23	H26	H29	R3
1	よく行われている	7.0	8.2	8.3	3.9
2	ときどき行われている	19.6	20.7	22.2	15.2
3	ほとんど行われていない	7.5	9.1	9.8	8.3
4	行われているかどうか知らない	31.7	58.6	58.7	69.5

2. 協議事項（1）

防災対策委員会

【地域防災力の向上】8-① 定期的な防災研修・訓練・啓発の実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> 多くの市民が災害に対する不安感を抱えている 不安を感じている一方で、家庭内の対策が不十分である 共助の取り組みには地域差があり、住民への周知・浸透が十分でない 					
	主観的課題	災害時には、防災関係機関だけでは対応が困難である					
目標	防災研修・訓練を通じた市民の防災意識の高揚 (研修・訓練回数の増加、自主防災活動に関する認知度増加)						
内容	地域住民だけでなく防災関係機関・医療機関・各団体・地元企業を巻き込んだ定期的な防災研修・訓練及び啓発を実施する。また、既存の行事に防災の視点を取り入れた研修・訓練を実施する。						
対象者	市民						
実施者	市民、校区コミュニティ組織、民間企業、医療機関、防災関係機関、市など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> セーフコミュニティの関連のイベント参加、啓発物配布 各委員が所属団体内において研修等の実施 						
令和3年度の実績及び改善した点等	<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急告知防災ラジオ等による情報伝達訓練（6月12日、1月17日 全校区訓練参加） 防災とボランティア週間において防災啓発パネルを展示 出前講座・自主防災訓練の実施回数 40回 参加者 1,603人 【2022.3月末時点】 <p>【改善点】</p> <p>出前講座では、小学校3年生へ子ども防災教室を実施。防災に関する〇×クイズをおこない楽しみながら防災について学ぶ機会となった。</p>	<p>防災とボランティアの日 展示風景</p>					
令和4年度の方針及び課題等	<p>市と校区の自主防災組織との協働による訓練の実施</p> <p>校区の防災士、防災リーダーが出前講座に参加してもらう機会を作る。</p> <p><u>自分が住んでいる地域の災害リスクに応じた避難行動</u></p> <p>本格導入する被害情報閲覧システム（防災チャットボット）等を活用し、土砂災害や浸水など自分が住んでいる地域がどの災害でどのくらいの危険があるのか把握し、正しい避難行動がとれるよう啓発する。</p>						
指標	内容	単位	2017	2018	2019	2020	2021
活動指標	① 防災研修・訓練の実施回数	回	106	113	159	25	40
	② ①の参加者数	人	6,473	6,159	8,216	886	1,603
【短期】認識・知識	「自主防災活動を認識している」人の割合 [市民意識調査(3年毎)]	%	30.5	—	—	—	19.1
【中期】態度・行動	食料備蓄等の対策を講じている人の割合 [市民意識調査(3年毎)]	%	48.0	—	—	—	66.5
【長期】状況	水害やがけ崩れ・山崩れの防止などの防災対策及び総合防災訓練の充実 に満足している人の割合[市民意識調査]	%	43.2	37.9	38.2	—	40.5

※新型コロナウイルス感染の状況から、平常とは異なる環境のため令和2年度は市民意識調査の実施を延期

【地域防災力の向上】8-② 防災に精通しているリーダーの育成

課題	客観的課題	多くの市民が災害に対する不安感を抱えている						
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時には、防災関係機関だけでは対応が困難である ・自助・共助の取り組みには、地域住民の先頭に立ち、活動を推進する防災リーダーの存在が必要 						
目標	各校区の自主防災組織における防災士や防災リーダーの役割を明確にし、地域での活躍できる環境を整える。							
内容	組織的な活動を継続的に行うため、防災技術等の高いリーダーを育成する。また、地域にいる消防関係者や防災士などを積極的に登用する。							
対象者	市民							
実施者	市民、校区コミュニティ組織、民間企業、医療機関、防災関係機関、市など							
対策委員会の関わり	各種研修会における企画・運営に対策委員会の委員が参画。							
令和3年度の実績及び改善した点等	<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災リーダー養成研修会 10～12月に平日・休日コースを設け4つのカリキュラムにて実施 79名受講（男性：69名、女性：10名） ・防災スキルアップ研修会 まちづくり連絡協議会や各校区の協力のもと3月にZOOMにて実施 ・地域の防災士養成研修 1月22日、23日実施 23名受講 ・防災士養成数：128名 ・防災リーダー養成数：224名 <p>【改善点】</p> <p>防災スキルアップ研修会では、令和2年度に初めてオンラインで開催し、前年比123名増の217名の方に参加していただく事が出来た。令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンラインで実施し、377名の方に参加していただく事ができた。</p>						<p>防災リーダー研修会の様子</p>	
令和4年度の方針及び課題等	<p><u>防災士、防災リーダーの地域との関わりについて</u></p> <p>各校区の防災士、防災リーダーが地域で活躍できる場を提供することが必要</p> <p>防災士・防災リーダーが主体となった研修会や訓練の実施</p>							
指標	内容	単位	2017	2018	2019	2020	2021	
活動指標	① 防災リーダー養成研修の実施回数（平成31年度新規事業）	回	—	—	2	2	2	
	② ①の養成者数（累計）	人	—	—	59	145	224	
【短期】認識・知識	「自主防災活動を認識している」人の割合 [市民意識調査(3年毎)]	%	30.5	—	—	—	19.1	
【中期】態度・行動	防災リーダーによる地域主体の研修等の実施回数	回	—	—	1	—	—	
【長期】状況	水害やがけ崩れ・山崩れの防止などの防災対策及び総合防災訓練の充実に満足している人の割合[市民意識調査]	%	43.2	37.9	38.2	—	40.5	

※新型コロナウイルス感染の状況から、平常とは異なる環境のため令和2年度は市民意識調査の実施を延期

【地域防災力の向上】8-③ 避難行動要支援者名簿の登録促進

課題	客観的課題	大規模災害時は、自力避難が困難な高齢者や障害者などが犠牲になりやすい						
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時には、防災関係機関だけでは対応が困難である ・避難行動要支援者の把握ができなければ支援がいき届かない 						
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者名簿登録制度の認知度を高める ・避難行動要支援者名簿登録者数を増やす 							
内容	名簿登録推進のため各団体が保有している情報を最大限活用し、避難行動要支援者名簿の登録対象となる方へ、積極的な情報提供を行う。							
対象者	<p>【避難行動要支援者】</p> <p>次に掲げる者のうち、在宅の者であって、災害が発生し、また、災害が発生する恐れがある場合に自力又は家族の協力による避難が困難である者とする</p> <p>ア 要介護3以上の認定を受けている者</p> <p>イ 身体障害者手帳1級又は2級の交付を受けている者</p> <p>ウ 療育手帳Aの交付を受けている者</p> <p>エ 精神障害者保健福祉手帳1級の交付を受けている者</p> <p>オ 要配慮者であって、名簿情報の避難支援等関係者への事前提供に同意する者</p> <p>カ 平成31年1月末現在において、災害時要援護者名簿に登録している者</p>							
実施者	市民、校区コミュニティ組織、民間企業、医療機関、防災関係機関、市など							
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員の所属団体における名簿登録の促進への協力 ・セーフコミュニティ関連の啓発イベントでの周知活動への協力 							
令和3年度の実績及び改善した点等	<p>【実績及び改善点】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各校区の名簿差し替え時（5月）に登録促進の協力を依頼 2 防災リーダー研修会や校区の説明会等で制度を説明し、登録促進の協力を依頼 3 新規名簿登録対象者等への登録促進DMの送付（約200件） 4 防災スキルアップ研修会において名簿制度を説明 5 民生委員による在宅高齢者基礎調査時に必要な方への登録促進 							
令和4年度の方針及び課題等	<p>【課題】・名簿登録制度及び名簿の活用方法の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者の支援体制構築 <p>【方針】・避難行動要支援者名簿登録制度及び名簿の活用方法の周知・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名簿未登録の避難行動要支援者に対する登録促進 ・名簿を活用した図上訓練等により、避難行動要支援者の支援体制を構築 							
指標	内容	単位	2017	2018	2019	2020	2021	
活動指標	① 避難行動要支援者名簿制度の説明実施回数	回	—	—	67	67	64	
	② ①の参加者数	人	—	—	1,326	858	1,053	
【短期】認識・知識	避難行動要支援者名簿の認知度 [SC実態調査]	%	13.8	—	—	—	14.4	
【中期】態度・行動	避難行動要支援者名簿の登録率	%	—	49.86	50.11	48.08	40.56	
【長期】状況	水害やがけ崩れ・山崩れの防止などの防災対策及び総合防災訓練の充実に満足している人の割合[市民意識調査]	%	43.2	37.9	38.2	—	40.5	

※新型コロナウイルス感染の状況から、平常とは異なる環境のため令和2年度は市民意識調査の実施を延期

【地域防災力の向上】8-④ 避難行動要支援者個別支援計画の充実

課題	客観的課題	大規模災害時は、自力避難が困難な高齢者や障害者などが犠牲になりやすい					
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時には、防災関係機関だけでは対応が困難である ・避難行動要支援者を支援する人や避難経路・計画等が具体的に決まっていない地域がある 					
目標	地域の避難支援等関係者による避難行動要支援者の情報の共有と個別支援計画の具体化						
内容	災害時の避難行動要支援者支援の実効性をより高めるために、図上訓練などを通じて個別支援計画の作成・具体化を行い、合わせて地域における共助の仕組みづくりを推進する。						
対象者	<p>【避難行動要支援者】 次に掲げる者のうち、在宅の者であって、災害が発生し、また、災害が発生する恐れがある場合に自力又は家族の協力による避難が困難である者とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 要介護3以上の認定を受けている者 イ 身体障害者手帳1級又は2級の交付を受けている者 ウ 療育手帳Aの交付を受けている者 エ 精神障害者保健福祉手帳1級の交付を受けている者 オ 要配慮者であって、名簿情報の避難支援等関係者への事前提供に同意する者 カ 平成31年1月末現在において、災害時要援護者名簿に登録している者 						
実施者	市民、校区コミュニティ組織、民間企業、医療機関、防災関係機関、市など						
対策委員会の関わり	図上訓練実施の際等に各委員の所属団体内において訓練等への参加協力						
令和3年度の実績及び改善した点等	<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名簿を活用した図上訓練実施校区数 9校区（44校区／46校区で実施完了） ・未実施1校区の支え合い推進会議への働きかけ <p>【改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で作る災害時マイプラン（簡略化した個別避難計画）作成の出前講座を開始 ・民間の相談支援専門員による災害時マイプラン（個別避難計画）の作成支援 		 <p style="text-align: center;">図上訓練</p>				
令和4年度の方針及び課題等	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図上訓練未実施校区での訓練実施 ・各校区における継続的な訓練実施 ・避難行動要支援者本人の訓練参加や希望する要支援者の個別避難計画策定 <p>【方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図上訓練未実施校区での訓練実施と各校区における継続的な訓練実施の働きかけの強化 ・地域の避難支援等関係者、専門職、社会福祉協議会などと連携し、希望する避難行動要支援者の個別避難計画を策定 ・介護事業所等の連携し、ケアマネジャーによる個別避難計画を試行的に策定 						
指標	内容	単位	2017	2018	2019	2020	2021
活動指標	① 名簿を活用した図上訓練実施校区数（46校区中）	校区	2	14	15	9	9
	② 名簿を活用した図上訓練実施回数（年毎）	件	2	14	16	16	13
【短期】認識・知識	図上訓練で個別支援の認識を高め、計画充実に取り組んだ参加者数	人	—	765	936	528	447
【中期】態度・行動	継続的な図上訓練実施校区数（2年に1回以上）	件	5	14	20	18	11
【長期】状況	水害やがけ崩れ・山崩れの防止などの防災対策及び総合防災訓練の充実に満足している人の割合[市民意識調査]	%	43.2	37.9	38.2	—	40.5

※新型コロナウイルス感染の状況から、平常とは異なる環境のため令和2年度は市民意識調査の実施を延期

【地域防災力の向上】8-⑤ 地域の自主防災マニュアルの作成(令和4年度以降8-①と統合)

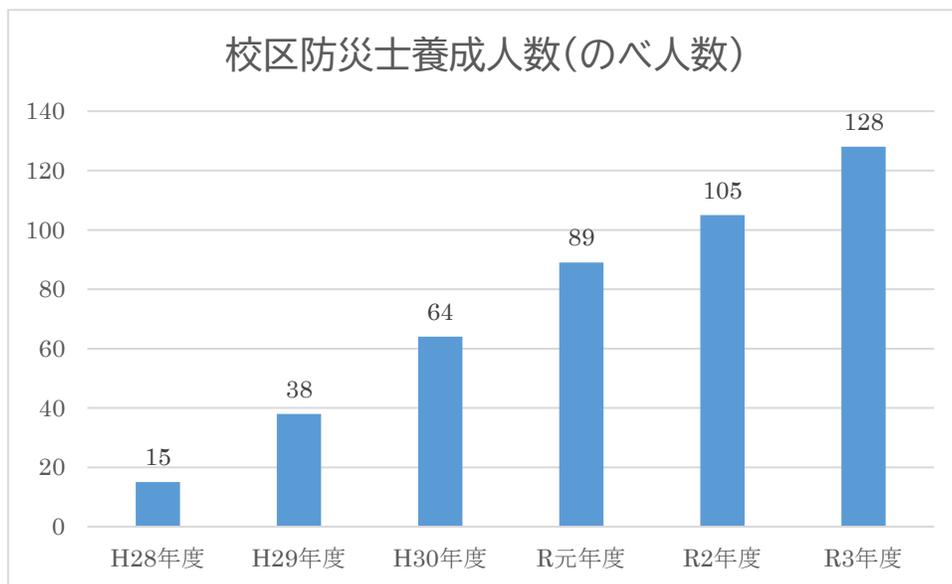
課題	客観的課題	共助の取り組みには地域差があり、住民への周知・浸透が十分でない					
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時には、防災関係機関だけでは対応が困難である ・要支援者を支援する人や避難経路等の計画が具体的に決まっていない地域がある 					
目標	校区における自主防災マニュアルの作成 自主防災マニュアルを活用した避難訓練等の実施						
内容	地域の危険箇所及び安全な経路・施設を把握し、より安全な避難ルートや集合場所など地域性の実情に応じた避難計画を作成する。						
対象者	市民						
実施者	市民・校区・PTA・防犯協会・警察・市など						
対策委員会の関わり	コミュニティ組織や校区の関係団体との連携						
令和3年度の実績及び改善した点等	<p>【実績】 自主防災マニュアル策定状況 策定済：24校区 策定中：21校区 未策定：1校区 策定済、策定中合わせて45校区</p> <p>第6回津福校区防災訓練の実施 津福校区自主防災会を中心に、防災士や防災リーダー、各自治会役員や津福小学校の先生などが参加し、避難所運営ゲームやワンタッチパーテーションの設置訓練をおこなった。避難所運営ゲームでは、各班に課題を配布し様々な意見を出し合いながら課題解決に向けて各班で取り組んだ。</p>						
	 						
令和4年度の方針及び課題等	<p><u>各校区における主体性のある研修・訓練の実施</u> 校区によって違う災害リスクに基づいた研修・訓練の促進</p> <p>策定済み、策定中を合わせると45校区が自主防災マニュアルの策定をおこなっており、今後はそのマニュアルを活かした啓発や訓練が必要であるため、個票8-①と統合し取り組みを進めて行く。</p>						
指標	内容	単位	2017	2018	2019	2020	2021
活動指標	自主防災マニュアルを作成した校区数	校区	—	—	—	—	0
【短期】認識・知識	地域の避難所の認知度 [市民意識調査(3年毎)]	%	82.2	—	—	—	88.2
【中期】態度・行動	自主防災マニュアルに基づく訓練を実施した校区	校区	—	—	—	—	1
【長期】状況	水害やがけ崩れ・山崩れの防止などの防災対策及び総合防災訓練の充実に満足している人の割合[市民意識調査]	%	43.2	37.9	38.2	—	40.5

※新型コロナウイルス感染の状況から、平常とは異なる環境のため令和2年度は市民意識調査の実施を延期

防災対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
地域防災力の向上	8-①	定期的な防災研修・訓練・啓発の実施
	8-②	防災に精通しているリーダーの育成
	8-③	避難行動要支援者名簿の登録促進
	8-④	避難行動要支援者個別支援計画の充実
	8-⑤	地域の避難計画を作成

ア. 成果〈数値で表せるもの〉 【令和4年3月末時点】



イ. 成果〈数値で表せないもの〉

●校区の防災士・防災リーダー等が主体となっておこなった啓発

南校区では、毎年の浸水被害で大きな被害が無く、地域住民の防災意識が低いことが課題であると考え、自然災害に対して防災意識をどのように高めていくか、防災士会議を開いて検討してきました。

この会議の中で出た案として南校区親子防災フェアを開催することになりました。

この親子防災フェア開催には防災士だけでなく、防災リーダーや女性の会防火クラブ、消防十三分団、久留米市広域消防本部、南出張所、久留米市防災対策課などたくさんの方々に参加し開催しました。

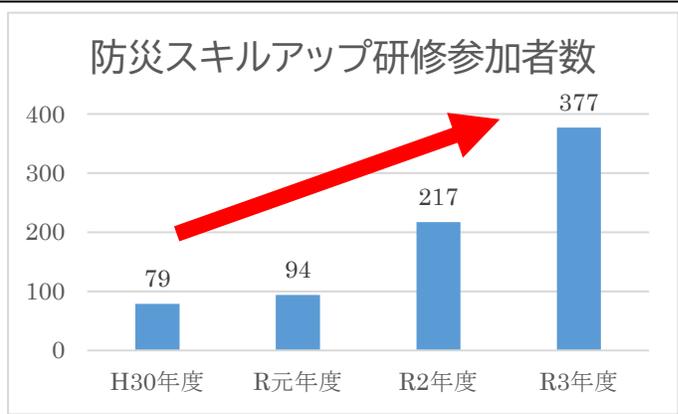


ウ. 令和3年度の取り組みで最も成功した事

●防災スキルアップ研修

新型コロナウイルス感染症対策の観点から、久留米市校区まちづくり連絡協議会や各校区コミュニティセンターの協力のもと、令和2年度に初めてオンラインで実施しました。

開催方法を対面からオンラインに変更したことで会場の定員数による制限を設ける事が無くなった事、校区のコミュニティセンターや自宅で視聴する事ができる為、防災士や防災リーダー、自治会役員の方々に積極的に参加していただく事が出来ました。



エ. 令和3年度で最も積極的に取り組んだ活動

●出前講座について

新型コロナウイルスの影響で出前講座に行く機会が減り啓発をおこなうには厳しい状況でした。

しかし、川会小学校の3・4・5・6年生、南小学校の3年生に防災教室を開催する機会があり、小学生でも分かりやすく防災について学習できるように、防災〇×クイズを実施しました。クイズは大盛り上がりで、みんなで楽しく防災について考える機会になりました。



オ. 分野横断的に行っていること

- ・防災対策課、地域福祉課、久留米広域消防本部による自主防災研修
- ・防災対策課、地域福祉課による避難行動要支援者名簿を活用した図上訓練
- ・久留米市社会福祉協議会と久留米大学ボランティアサークルとの連携(行政と地域の協働)

カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

8-① 定期的な防災研修・訓練・啓発の実施

幅広い世代への啓発
自分が住んでいる地域の災害リスクに応じた避難行動の周知

8-② 防災に精通しているリーダーの育成

各校区で養成した防災士、防災リーダーが地域で活躍するスキルや環境が整っていない

8-③ 避難行動要支援者名簿の登録推進

名簿登録制度及び名簿の活用方法の周知
避難行動要支援者の支援体制構築

8-④ 避難行動要支援者個別支援計画作成

図上訓練未実施校区での訓練実施
各校区における継続的な訓練実施
避難行動要支援者本人の訓練や個別支援計画策定への参加
特にハイリスクな避難行動要支援者の個別支援計画の具体化

8-⑤ 地域の避難計画の作成

校区によって違う災害リスクに基づいた研修・訓練の促進

防災対策委員会

具体的施策		令和4年度取り組み方針
8-①	定期的な防災研修・訓練・啓発の実施	<u>自分が住んでいる地域の災害リスクに応じた避難行動の周知</u> 防災チャットボット等を活用し、土砂災害や浸水など自分が住んでいる地域がどの災害でどのくらいの危険があるのかを把握し、正しい避難行動がとれるように啓発する
8-②	防災に精通しているリーダーの育成	<u>防災リーダーが活躍できる環境の整備</u> 各校区の自主防災組織における防災士・防災リーダーが地域で活躍するためのスキルアップや環境の整備
8-③	避難行動要支援者名簿の登録促進	<u>・避難行動要支援者名簿登録制度及び名簿の活用方法の周知・啓発</u> <u>・名簿未登録の避難行動要支援者に対する登録促進</u> <u>・名簿を活用した図上訓練等により、避難行動要支援者の支援体制を構築</u>
8-④	避難行動要支援者個別支援計画の充実	<u>・図上訓練未実施校区での訓練実施と各校区における継続的な訓練実施の働きかけの強化</u> <u>・地域の避難支援等関係者、専門職、社会福祉協議会などと連携し、希望する避難行動要支援者の個別避難計画を策定</u> <u>・介護事業所等の連携し、ケアマネジャーによる個別避難計画を試行的に策定</u>
8-⑤	地域の避難計画を作成	各校区における主体性のある研修・訓練の実施 校区によって違う災害リスクに基づいた研修・訓練の促進をおこなうため、今後は個票8-①及び8-④で取り組みをおこないたい。